IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

# 岩手医科大学報

2016. 6 No.477

主な内容

巻頭言 ―― 医学部長・薬学部長就任のご挨拶
特　集 ―― 附属病院移転事業の進捗状況について
平成28年度予算
新任教授の紹介
フリーページ ―― すこやかスポット医学講座No.67
「爪の切り方について」

表紙写真：矢巾町南昌山麓　幣掛（ぬさかけ）の滝（2016.6.21 撮影）

Iwate Medical University

巻頭言

# 医学部長就任のご挨拶

医学部長
**佐藤 洋一**
（医学教育学講座　教授）

この度、小川理事長はじめ医学部教授会の皆様のご推挙により、はからずも医学部長という大任を仰せつかりました。本来であれば皆様の職場に出かけて挨拶を申し上げるところですが、大学報の誌面を借りまして、医学部長としての抱負を申し上げたいと存じます。

私は昭和53年に本学を卒業して以来、専ら組織学・肉眼解剖学の教育と電顕による超微形態観察や細胞内情報伝達系の可視化の研究に明け暮れて参りました。ところが、平成14年に教務委員に選ばれてからは次第に医学教育の実務に携わるようになり、平成25年には新設された医学教育学講座を主催するに至りました。こうした経験を踏まえて、来たる分野別認証評価の仕事を統括するように、との天命を頂いたと心得ております。

大学の使命は後進育成にあるわけですが、医育機関ではその成果が国家試験合格率という数値で表現されます。もちろん、プロフェッショナルとしての倫理面や行動面を含めた評価もなされなければならないのですが、なんと言っても学外にアピールするのは、合格率でしょう。今後は、原級留置すること無しにストレートでライセンスを取る率の向上にも意を注がなくてはなりませんから、国家試験合格率を上げるために進級・卒業を厳しくするのは、決して良策ではないことを銘記したいと思っております。

大学全入時代となれば、学生の学力低下は否めませんが、それ以上に私たち教員が見誤っていたのは、学生気質の激変であったように思います。おしなべて克己心と向上心に乏しく真の自己肯定感をもてない学生が増えていますから、医学教育学会が紹介したアメリカ流の能動学修方法を推進すればするほど、落ちこぼれていく学生が増えるのはあたりまえでした。そこで今度は下位学生向きに minimum requirement と称して必要最低限の知識を覚えてもらうように呈示したところ、「それさえやれば、通る」と、多くの学生が低いレベルで満足してしまう事態となりました。読みがことごとく外れたのです。これに対する策ですが、能動学修の利点欠点をわきまえて、授業の中身を学生の学力に応じてきめ細かく改善することに尽きると思います。派手なカリキュラム改変は却って学生の不信感を招くだけかもしれません。要は形成的評価を多段階でおこなって、より高いレベルで統括試験に合格するように学生を誘導するのです。

あわせて、自らの職種にプライドを持てるような試みも必要でしょう。内丸地区の方々はあまり実感なさらないと思いますが、矢巾では三学部の教職員と学生が渾然一体となって講義や実習をおこなう場面が徐々にではありますが増えてきています。学部の垣根を越えた教員と学生の触れあいもございます。その中で学生は天然自然に多職種連携業務に向けた心の準備を始めています。同一キャンパスだからこその強みを押し出した多職種連携教育は、国家試験の合格率急上昇にはつながらなくても、自己のプライドと相手に対するリスペクトを育む格好の場であると思います。残念ながら高学年になるとその関係は希薄になるのですが、地道ではあってもこうした連携を続けることが本学の教育の真髄といえます。

本稿では、喫緊の課題である国試合格率について述べさせていただきましたが、来年度は看護学部設置が予定され更に平成31年度には待望の病院移転がおこなわれ、そこにもかなり難しい問題が山積しております。とはいえ、大学の皆さんのお一人お一人が、それぞれのお立場でお仕事に積極的に取り組まれることで、この難局に対処できるものと信じております。もとより浅学非才の私でございます。皆様から忌憚の無いご意見を頂ければ、百人力と存じます。これからも宜しくお願い申し上げます。

巻頭言

# 薬学部長就任のご挨拶

薬学部長
**名取 泰博**
（衛生化学講座　教授）

この度、4月1日付けで岩手医科大学薬学部長を拝命いたしました。薬学部では、ここ数年の薬剤師国家試験合格率の低迷をきっかけとして、昨年夏に改革タスクフォースが設けられ、現在、薬学部は改革の真っ只中にあります。そのような時期の薬学部長の職には、いつにも増して非常に重い責任がありますが、微力ながら全力を尽くしてその責務を果たす所存であります。

薬学部としての直近の課題は来春の国試に向けた対策です。これについては既にタスクフォースで方向性が示されて昨年度から動いており、現在は学部を挙げて鋭意取り組んでいます。具体的には総合試験の早期開始、国試対策演習の充実などを行い、今のところ、これらの対策が功を奏してか、学生の姿勢も昨年より前向きと感じています。

中長期的な大きな課題として、教育カリキュラムの見直しと、それに対応した適切な組織及び教員の編成があります。組織改革については、タスクフォースによって講座の再編が始められていますが、さらにその改革を進めるには将来に向けた明確なビジョンが必要と考えています。本学薬学部が構想された十数年前と比べて、薬学部及び薬剤師を取り巻く環境が大きく変わってきています。文部科学省によって「薬剤師に求められる10の資質」が示され、それに伴って薬学教育モデルコアカリキュラムが改訂されました。また厚生労働省によって、医療介護等の地域包括ケアシステムにおける薬局の役割が示され、そこでの薬剤師の貢献が期待されています。これらの状況を踏まえて、本薬学部は、どのような薬剤師を育てるのか、またそのためにどのような教育をするのか、という原点に立ち返って動き始めました。PDCAサイクルを回すべくこれまでの問題点の洗い出しも踏まえて6学年全体の新しいカリキュラムを作り始めたところであり、来年度からの実施を目指しています。

また入学定員の見直しも喫緊の大きな課題です。今年、薬学部の入学者は定員を大きく割り込みました。一方、2018年問題と言われているように、2018年から18歳人口の減少に伴って大学への進学者が減少し始めると予想されています。この状況にどう対処すべきか、早急に方針を定めるよう、現在、議論を重ねております。

以上のほかにも、研究の推進や、薬学部としての地域医療への貢献などの課題があり、さらに薬学部は来年度に分野別認証評価を受けることになっています。これらを克服するために、薬学部では全員が一丸となって立ち向かおうとしています。薬学部の改革に向けて、岩手医科大学の教職員の皆様のご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

特集

# 附属病院移転事業の進捗状況について

## ～矢巾新附属病院の基本設計及びスケジュール～

企画部総合移転計画事務室

附属病院移転事業については、平成 31 年の矢巾新附属病院開院に向け、現在設計作業を進めており、昨年 12 月には工事施工業者候補者として、（建築工事）清水建設・宮城建設ＪＶ *、（機械設備工事）朝日工業社・富士水工業ＪＶ、（電気設備工事）ユアテック・興和電設・岩舘電気ＪＶを選定しました。

また、今回の業者選定時には、病院機能の更なる効率化と建設工事費の圧縮を念頭に、施工業者からの技術提案を採用し、一部設計内容やスケジュールの見直しを行いましたので、現在の進捗状況についてご報告します。

*JV：共同企業体

### 施工業者からの技術提案について

**原設計**

- 地下１階　地上 13 階（免震構造）
- 研修棟・リニアック：別棟（耐震構造）
- ２看護病棟（高層病棟＋低層病棟）

**最終 VE 案**

- 地下なし　地上 11 階（免震構造）
- 一体化
- ４看護病棟

***VE：Value Engineering とは***

製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」とそのためにかける「コスト」との関係で把握し、システム化された手順によって「価値」の向上をはかる手法

今回、病院機能及び建物の効率化やコストダウンを目的として、次の「３つの価値向上」をコンセプトとした施工業者からの技術提案を採用し、設計内容の変更を行いました。

## 【価値の向上❶】　～患者と医師・看護師の距離短縮～

- 患者さんの移動距離を短縮することを目的として、外来と検査部門はその主な機能を1階と2階に集約。外来用のエレベーター増台とエスカレーターを設置し動線を効率化（図1）
- ドクターヘリポートからの救急搬送距離を直進で約25m短縮
- 病棟単位を２看護から４看護に変更。４つの病棟の中央に医師・スタッフエリアを配置し、「医者は患者のそばに」をより実現化（図2）
- ４看護病棟の中央にスタッフエレベーターを配置し、スタッフ及び物流・搬送動線を合理化。乗り換えのないご遺体の搬送動線を確保（図3）

図１：吹き抜けの外来ホール（※イメージ）

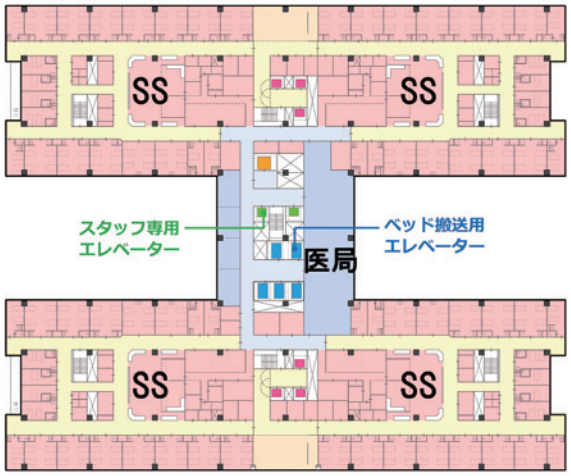



図２：４看護病棟／１フロア

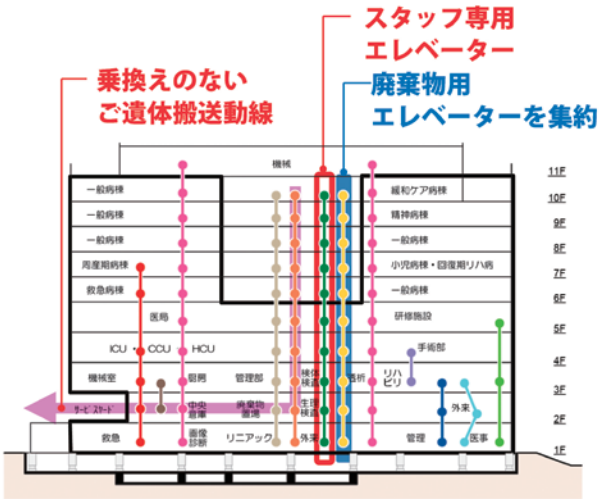



図３：エレベーターの増強と効率的配置

## 【価値の向上❷】　～増築スペースの確保と有効床面積の増加～

- 別棟で計画していた付属施設（研修棟、リニアック棟）を病院本体に一体化
- 将来増築スペースを病院棟の南北に確保し、利用可能な面積を増大（図4）
- エネルギーセンターへの近接による設備、電気配管ロスのコストカット
- 研修施設がある階については、将来医療機能への用途転用が可能な階高（4.8m）の確保
- 建物の一体化や病棟階構成の見直しによる有効床面積の増加

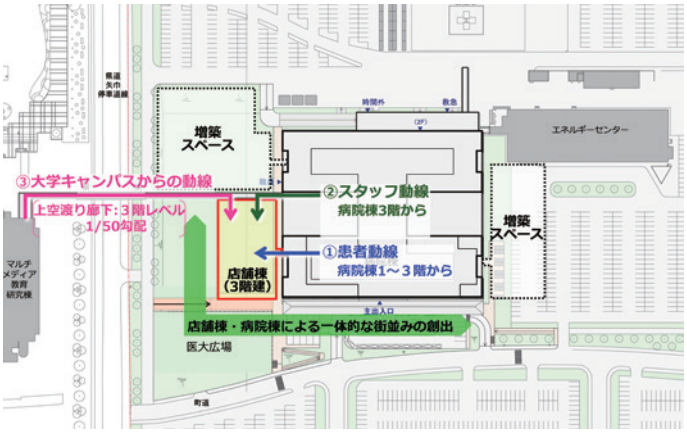



図４：病院棟の南北に増築スペースを確保

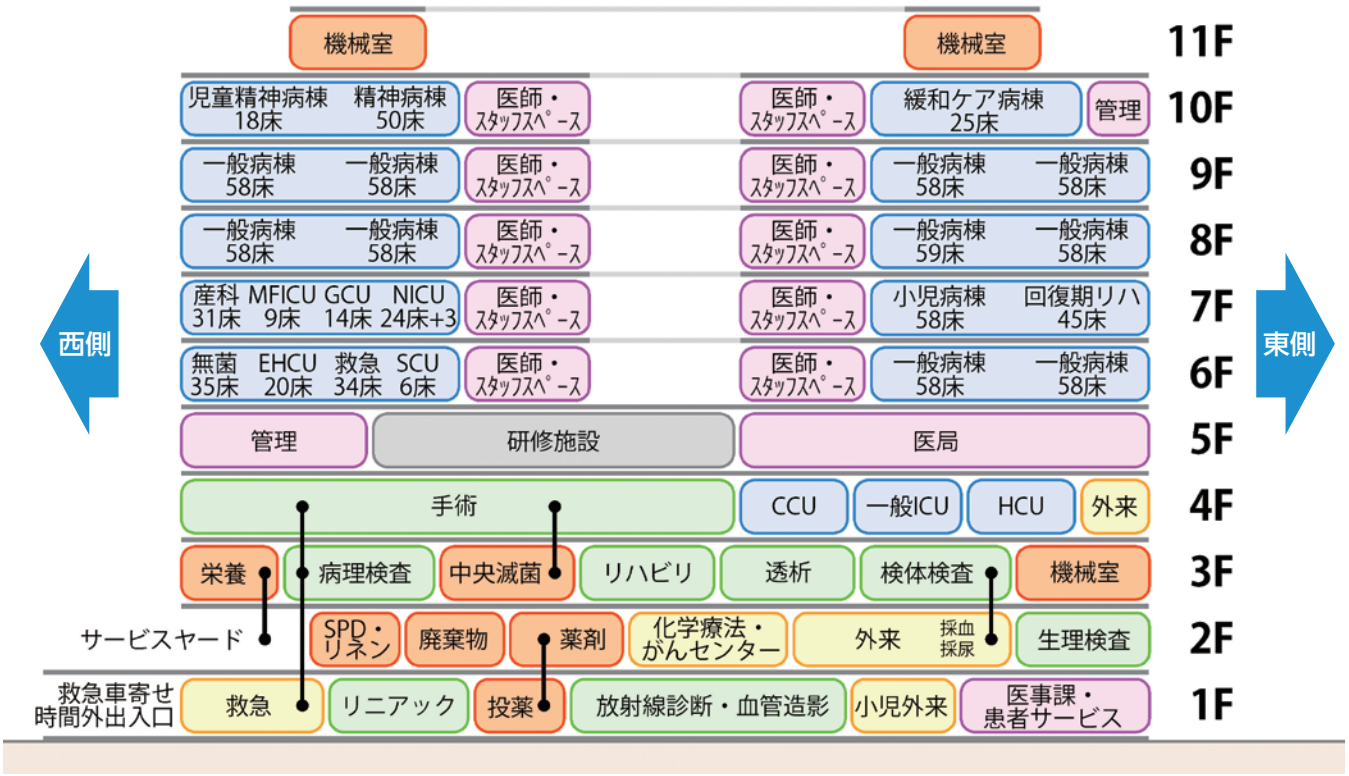
## 【価値の向上❸】　～地震・水害・火災に対する安全性の向上～

- 建物一体によるオール免震化で地震に強い病院の実現
- 地下階の中止と１階レベルのアップによるコストダウンと水害・地下対策
- ４看護病棟を１フロアに集約したことにより、火災時にはより多く速やかな避難が可能

## フロア構成について

新附属病院建物の 1、2 階は、外来患者さんの動線に配慮した外来・検査中心のフロア構成とし、3階にはリハビリ部門や透析部門を配置しています。また、2階西側には物流の拠点となるサービスヤードを置き、2階と3階のスタッフ動線側(西側) に、薬剤や給食、SPD、中央滅菌などの供給部門を配置しています。4階は手術室及び集中治療室(ICU・CCU・HCU) を中心とした高度治療フロア、5階は医局や管理部門・研修関係フロア、6階～10 階には病棟を配置し、西側には救急医療及び小児・周産期医療を集約した統合医療センター（仮称）機能や精神・児童精神科病棟、東側には一般病棟や回復期リハビリテーション病棟、展望の良い最上階には緩和ケア病棟を配置しています。

また、患者さんとスタッフの動線を明確に区分けし、建物の中央にはスタッフ専用のエレベーターや、給食・廃棄物用のエレベーターをそれぞれ配置し、ベッド搬送や様々な物品供給など専用動線を利用して効率的に運用する計画としています。

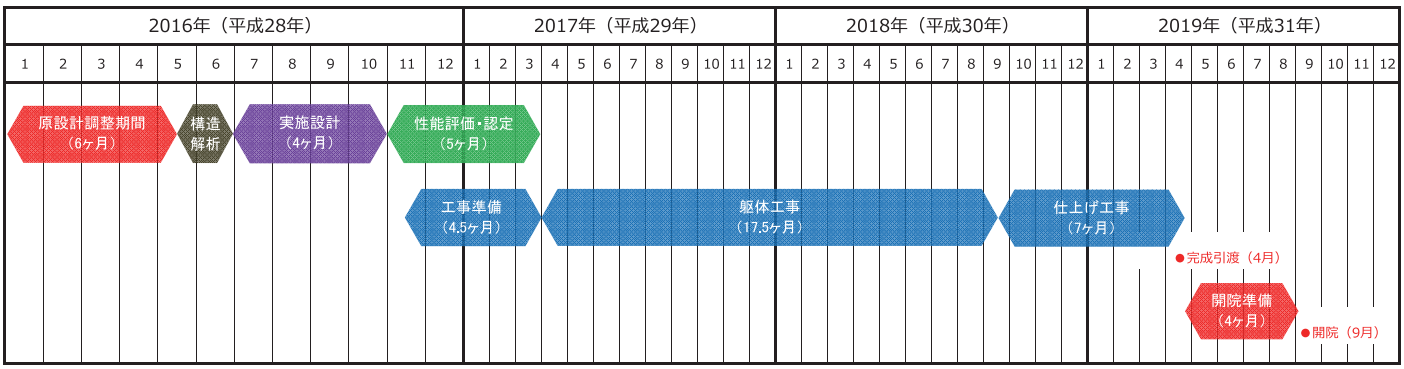



## 今後のスケジュール

今後のスケジュールとして、平成 28 年度中に実施設計・各種申請手続きを進め、平成 29 年の工事着工、平成 31 年の開院を目指して事業を進めます。

なお、当初平成 31 年 5 月開院の予定で計画を進めてまいりましたが、今回、建物の構造設計の見直しや、開院までの準備期間の確保を考慮し、余裕を持ったスケジュールで開院準備を進めていくことが必要であることから、矢巾新病院の開院時期を 5 月から 9 月に延期することが理事会で決定いたしましたのでご報告いたします。

引き続き、教職員の皆様、関係者の皆様からのご支援とご協力をお願いいたします。



# 岩手医科大学募金状況報告

## 【創立120周年記念事業募金】

平成26年６月から始まりました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

**今回は第10回目の御芳名紹介です。（平成28年３月１日～平成28年４月30日）**

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

### ●法人・団体（５件）

<1,200,000>

圭陵会　青森県三八支部（青森県八戸市）

<500,000>

医療法人　小島慈恵会（宮城県岩沼市）

<御芳名のみ掲載>

株式会社　岡村製作所北東北支店（岩手県盛岡市）

丸木医科器械　株式会社（宮城県仙台市）

株式会社　三田商店（岩手県盛岡市）

（順不同　敬称略）

### ●個人（14件）

<2,000,000>

小川　彰（役員）

<1,000,000>

縄田　與幸（医9）

西島　光茂（医23）

西島　淺香（医23）

大島　俊克（医24）

<500,000>

塚原　正典（医19）

<200,000>

須田　正房（専18）

<御芳名のみ掲載>

柏原　利子（医9）

米山　幸作（医9）

前田　正知（元職員）

伊藤　忠一（役員）

齊藤　和明（父母）

坂本　　貴（父母）

三田　義之（役員）

（順不同　敬称略）

| 区　分 | 申込件数 | 寄付金額（円） |
|---|---|---|
| 圭陵会 | 295 | 264,730,000 |
| 在学生ご父母 | 205 | 153,635,000 |
| 役員・名誉教授 | 35 | 41,660,000 |
| 教職員 | 74 | 13,707,000 |
| 一般 | 26 | 21,080,000 |
| 法人・団体 | 90 | 352,425,000 |
| **合計** | **725** | **847,237,000** |

（平成28年4月30日現在）

# 新入職員の声　～研修を通じて学んだこと～

**4月1日から5日にかけて行われた新人職員オリエンテーションの感想をご紹介します。**
**なお、研修の日程・内容は職種により一部異なります。**

中４階 看護師
**中上野 紗弓**

研修では看護部の理念や基本方針など学ぶことが出来ました。中でも特に印象に残ったことは、岩手医科大学附属病院には約 120 年分の信頼があるということです。

私は看護職として、患者さんにこの病院に入院して良かったと思ってもらえるよう、配慮ある行動を心がけたいです。そして、一人ひとりの患者さんにとっての安楽を提供できる看護師を目指し、三田俊次郎先生が考える誠の人間に近づくことができるよう学習に励みたいです。

中央臨床検査部 臨床検査技師
**細野 みゆき**

研修の中で何度も耳にした「誠の人間の育成」という言葉が心に留まりました。本学では、全職員が一つの理念を共有しながら、岩手県の医療を支えており、私もその中の一人として、社会人をスタートするのだと実感しました。

病院長の講話にあった「最も有効な処方は患者さんの納得である」という言葉のように、私は迅速に検査をし、いち早く治療に繋げ、患者さんに納得してもらえる医療を提供したいです。

循環器５階 ICU 看護師
**伊藤 真琴**

研修を通じて、医療人として、岩手医大の職員としての自覚を持ち、日々責任ある行動を心がけるべきだと強く感じました。

また人と接する際に相手に対する思いやりの気持ちを大切にし、目配りや心配りをすることが患者さんやご家族に対して看護を提供する上での安心や安楽に繋がっていくのではないかと感じます。

今はまだ不安でいっぱいですが、努力することを惜しまずに、少しずつでも自分を高められたらいいなと思います。

経理課 事務員
**多田 匠吾**

研修ではチーム医療の例えとして、「各人は“桶の枠”であり、個人のレベルの低さがチーム全体のキャパシティを小さくしてしまう」とのお話がありました。私は１日でも早くチームの水準まで自分を引き上げられるよう、何事も自ら学ぶ姿勢で取組み、個の力を高めていきたいと思いました。

今回の研修から得た気づきを大切にし、初心を忘れず日々精進していきたいです。

# 学校法人岩手医科大学
# 平成28年度予算

## 1．予算編成にあたって

平成28年度事業計画予算は、矢巾新附属病院建設工事をはじめとする総合移転整備事業の推進が主となっています。その他には看護学部施設関係工事、中・西病棟系統吸収式冷凍機更新工事などがあります。

また、創立120周年記念事業には、矢巾新附属病院建設などの総合移転整備事業や看護学部の新設などが含まれ、その実施に向けた事業資金の確保が最重要課題となっています。一方で、診療報酬の改定や、今後予定されている消費税再増税などの社会環境が本学の経営に大きな影響を及ぼすことが予想され、病院建設に向けた事業資金積立計画の見直しなども検討しなければならない状況となっています。

この様な厳しい環境下において、大学経営の安定維持には入学定員充足が不可欠であり、各学部の特性などを活かし入学生を確保していかなければなりません。また、本学の事業活動収入は約67.5%を医療収入が占めていることから、一層の患者確保に努め、医療収入の増収対策を推進し財政を安定させることにより、多額の資金を要する総合移転整備事業の事業資金計画に基づいた資金の確保に努めなければなりません。

これらのことから、平成28年度予算は、矢巾新附属病院建設などの実現に向けた財政を考慮し、収入については、医療収入などの増収に努め、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得をも図るものとし、支出については教育・研究・医療活動を円滑に遂行できるよう配慮のうえ可能な限り圧縮したものとしました。

## 2．主な予算項目

平成28年度事業活動収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金89億815万円（事業活動収入に占める割合16.8%）、医療収入357億2,286万円(同67.5%)、補助金36億2,355万円(同6.9%)を計上しました。これら３項目で事業活動収入の91.2%を占めています。その他の収入は46億2,973万円（同8.8%）を計上し、事業活動収入予算総額は528億8,429万円を計上しました。

支出予算では、人件費215億8,275万円（事業活動支出に占める割合43.4%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）148億5,909万円（同29.8%）、その他の諸経費など133億4,245万円(同26.8%)を計上し、事業活動支出予算総額は497億8,429万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△54億円の組入を計上したことにより、平成28年度は△25億円の支出超過(赤字)を計上した予算編成となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約67.5%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約73.2%を占めています。財政基盤の確立には引続き医療収入の増収と医療経費の適正･効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

### 1．学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部46億8,489万円、歯学部18億7,854万円、薬学部19億970万円、医療専門学校1億2,505万円、岩手看護短期大学3億997万円、合計89億815万円を計上しました。

### 2．医療収入

附属病院(医科)、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院、PET・リニアック先端医療センターを合計した医療収入予算は、入院収入249億3,612万円、外来収入104億9,811万円、その他の医療収入2億8,863万円、合計357億2,286万円を計上しました。

### 3．補助金

教育活動収入として、私立大学経常費補助金21億6,605万円、その他の国庫補助金4億2,965万円、また、地方公共団体補助金は9億3,980万円を計上し、合計35億3,550万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金8,805万円を計上しました。

### 4．人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は、社会情勢を考慮し定期昇給分0.51%を見込んで202億523万円、また、退職金関係では13億4,178万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計215億8,275万円を計上しました。

### 5．医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費82億8,947万円(医療経費率23.2%)、医療材料費63億2,134万円(同17.7%)、給食材料費2億4,828万円（同0.7%）を計上し、医療経費は合計148億5,909万円（同41.6%）を計上しました。

### 6．研究費

医学部・歯学部の講座研究費は、講座等の組織改編に伴い基本額を調整し、配分額の変更を行いました。また、薬学部・教養教育センターの講座研究費は、前年度と同額を計上しました。個人研究費にあたる特別研究費は、配分額の変更を行いました。

施設関係等の予算は次のとおりです。

### 7．施設関係

建物・建物付属設備等は、看護学部施設関係工事5億8,000万円、その他工事2億2,000万円、合計8億円を計上しました。

建物仮勘定は、病院移転整備事業として、附属病院移転建設工事50億円、設計管理業務1億3,450万円、合計51億3,450万円を計上しました。

### 8．設備関係

機器備品などの購入予算として、11億4,554万円を計上しました。

**平成28年度　事業活動収支予算書**

（単位：千円）

| 区分 | 収入の部 科目 | 収入の部 金額 | 支出の部 科目 | 支出の部 金額 |
|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 学生生徒等納付金 | 8,908,150 | 人件費 | 21,582,750 |
| | 手数料 | 250,590 | 医療経費 | 14,859,090 |
| | 医療収入 | 35,722,860 | 消耗品費 | 863,120 |
| | 寄付金 | 1,402,000 | 光熱水費 | 1,154,350 |
| | 経常費等補助金 | 3,535,500 | 旅費 | 256,210 |
| | 付随事業収入 | 1,596,510 | 修繕費 | 548,700 |
| | 雑収入 | 1,034,580 | 業務委託費 | 3,644,060 |
| | | | 減価償却額 | 3,451,280 |
| | | | その他の諸経費等 | 2,473,700 |
| | **教育活動収入計** | **52,450,190** | **教育活動支出計** | **48,833,260** |
| 教育活動外収支 | 受取利息配当金 | 24,850 | | |
| | **教育活動外収入計** | **24,850** | **教育活動外支出計** | **0** |
| 特別収支 | その他の特別収入 | 409,250 | 資産処分差額 | 134,030 |
| | | | その他の特別支出 | 817,000 |
| | **特別収入計** | **409,250** | **特別支出計** | **951,030** |
| | **事業活動収入合計** | **52,884,290** | **事業活動支出合計** | **49,784,290** |

| | |
|---|---|
| 予備費 | 200,000 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 2,900,000 |
| 基本金組入額合計 | △5,400,000 |
| 当年度収支差額 | △2,500,000 |

**平成28年度　資金収支予算書**

（単位：千円）

| 収入の部 科目 | 収入の部 金額 | 支出の部 科目 | 支出の部 金額 |
|---|---|---|---|
| 学生生徒等納付金収入 | 8,908,150 | 人件費支出 | 21,714,610 |
| 手数料収入 | 250,590 | 諸経費支出 | 23,779,000 |
| 医療収入 | 35,722,860 | 施設関係支出 | 5,934,500 |
| 寄付金収入 | 1,683,200 | 設備関係支出 | 1,145,540 |
| 補助金収入 | 3,623,550 | 資産運用支出 | 4,503,000 |
| 付随事業収入 | 1,596,510 | その他の支出 | 4,876,830 |
| 受取利息・配当金収入 | 24,850 | 予備費 | 500,000 |
| 雑収入 | 1,034,580 | 資金支出調整勘定 | △3,651,620 |
| 前受金収入 | 1,554,120 | 次年度繰越支払資金 | 16,670,040 |
| その他の収入 | 14,081,700 | | |
| 資金収入調整勘定 | △9,008,210 | | |
| 前年度繰越支払資金 | 16,000,000 | | |
| **収入の部合計** | **75,471,900** | **支出の部合計** | **75,471,900** |

※詳細な説明・確認等を希望される方は、財務部経理課（内線 3214・3215）まで照会願います。

## ふれあい看護体験が行われました

5月11日（水）、本学附属病院にて「ふれあい看護体験」が行われました。この体験は、ナイチンゲールの誕生日である5月12日が「看護の日」に制定され、その日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」としていることから、様々な施設でふれあい看護体験が実施されており、本院でも平成４年より毎年実施しています。

看護の道を志す生徒の増加を背景に、今年は県内の高校３年生57名が参加し、実際のユニフォームに袖を通すと緊張した面持ちで体験に臨みました。

生徒たちは、杉山病院長及び三浦看護部長より挨拶を受けた後、それぞれの体験場所となる病棟へ移動し、患者さんの搬送や誘導、清潔面の援助、車椅子での散歩、手術室の見学などを行いました。

体験終了後、参加した生徒からは、「今日の体験を今後の進路に活かし、知識を高めていきたい」、「看護師になって、またこの病院で働きたい」といった感想が述べられました。

## 小児科病棟で「こいのぼり会」が行われました

5月12日（木）、本学附属病院西５Ａ（小児科）病棟において、「こいのぼり会」が行われました。

この会は、入院中の子どもたちやその保護者が入院生活を楽しんでもらえるようにと、こどもの日にちなんで毎年５月に病棟スタッフが開催しています。

会では、キャラクターに扮した新人看護師によるダンスや、入院中の青松支援学校の生徒による「なぞなぞ」や手話を用いた歌と踊りが披露されました。

また、同病棟で実習中の看護学生による「うさぎとカメ」の劇や、子どもたちに人気のマジシャン「ケンケンさん」による手品ショーも行われ、楽しいひとときを過ごしました。

## 総合安全対策講習会ならびに医療安全表彰が行われました

平成28年度総合安全対策講習会が、 5月12日（木）から12回（録画映像による開催含む）にわたって歯学部棟4階講堂で行われ、医療職ら約2,000名が参加しました。講習会では、黒坂医療安全管理部長ほか3名の講師から院内における総合的な医療安全対策について、講演が行われました。

また、5月12日（木）に開催された本開催に先立ち、平成27年度医療安全表彰者として1名と2部署に、院内感染対策功労部署として3部署に対し、黒坂医療安全管理部長から表彰状が授与されました。

**＜平成27年度 医療安全表彰者（部署）＞**

- 循環器5階　橋本 博明 主任看護師
- 中央臨床検査部
- 歯科医療センター 障がい者歯科

**＜平成27年度 院内感染対策功労部署＞**

- NICU
- 中9階病棟
- 集中治療部

## 循環器医療センターでピアノリサイタルが行われました

5月17日（火）、本学附属病院循環器医療センター1階フロアにて、イタリア・ミラノ出身のピアニスト、マリノ・フォルメンティ氏によるピアノリサイタルが行われ、患者さんやご家族ら約150名が素晴らしい演奏と美しいピアノの音色を楽しみました。

曲目は、J.S.バッハ「インベンション第6番変ホ長調」やリストの「詩的で宗教的な調べ第7番葬送」、ジョンレノンの「オー・マイ・ラブ」などクラシック曲からポピュラーソングまで計8曲を演奏しました。

マリノ・フォルメンティ氏は、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、サントリーホール、チャイコフスキー音楽院等での演奏を重ね、現在、欧米で最も多忙なピアニストの一人であり、このピアノリサイタルは『第9回東日本大震災被災地応援ボランティア・ツアー』（主催：NPO法人フレンドシップ・コンサート、協賛:オーストリア航空（株）、ウェスティンホテル仙台）の一環として開催されました。

# 新任教授の紹介

平成28年1月1日就任

医学教育学講座地域医療学分野

## 伊藤　智範（いとう　とものり）

昭和41年1月23日生
秋田県出身

**研究テーマ**
・地域医療学　・冠動脈疾患の集中治療
・心血管カテーテル治療　・心血管イメージングなど

**主な著書論文**
・Itoh T, et al.大津波を伴う東日本大震災がST上昇型急性心筋梗塞症の診療へもたらした影響：European Heart Journal-Acute Cardiovascular Care 2014; 3: 195-203
・Itoh T, et al. 急性心筋梗塞症でのprimary PCIと血栓溶解療法先行PCIの比較—IMPORTANT研究：2010; 74: 1625-34.
・Iida T, Tanimura F, Itoh T, et al.左主幹部急性冠症候群の院内転帰に関連する心電図変化の特徴 European Heart Journal-Acute Cardiovascular Care投稿修正中：
・Itoh T et al. 光干渉断層法で観察したステント再狭窄病変の臨床的・病理学的特徴 Coronary Artery Disease 2015; 26: 201-11.

**趣味**
スキー、最近子供たちとはまったプラレール、旅行（学会から私的温泉旅行まで）、音楽鑑賞、研究室配属学生と研究すること

**教職員への自己ＰＲ**
地域医療学とは、在宅医療から行政機関とのやりとりまで幅の広い社会医学分野で、かつ医療の原点を意識させる分野です。地域医療学と医学教育に焦点をあてて、本学学生が岩手医大で学べてよかったと思えるシステムを構築して参ります。学内各方面の方々からの忌憚のないご意見とご指導を頂き、職務に邁進する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**経歴**

| | |
|---|---|
| 平成２年 | 本学医学部卒業<br>秋田大学で研修開始・秋田県内・岩手県内の地域の病院勤務 |
| 平成７年 | 国立循環器病センター<br>（現：国立循環器病研究センター）内科心臓部門 |
| 平成11年 | 八戸赤十字病院　循環器内科　部長 |
| 平成18年 | 本学内科学講座循環器・腎・内分泌内科分野　講師<br>CCU 医長のち室長（平成26年まで） |
| 平成24年 | 本学内科学講座循環器内科分野　准教授 |
| 平成28年 | 現職／内科学講座循環器内科分野<br>心血管リサーチセンター（講座内部署）兼務 |

平成28年4月1日就任

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

## 山田　浩之（やまだ　ひろゆき）

昭和41年10月19日生
茨城県日立市出身

**研究テーマ**
・下顎骨再建の研究
・唾液分泌障害の治療に関する研究

**主な著書論文**
・カスタムメイド・チタンメッシュトレーを用いた下顎骨再建の臨床的有用性（J Craniofac Surg. 2016; 27:586-92）
・腸骨海綿骨骨髄細片とカスタムメイド・チタンメッシュトレーを用いた下顎骨再建術（J Plast Surg Hand Surg. 2014; 48:183-90）
・歯髄細胞移植による唾液分泌低下症の治療（Arch Oral Biol. 2013; 58:935-42）

**趣味**
テニス、バトミントン

**教職員への自己ＰＲ**
昨年12月に本学に赴任いたしました。私は、患者さんのニーズを的確につかみ、エビデンスに基づいた最善の医療を提供できるよう、知識と手術手技の習得に努めております。本学でも病院内外の関連各科と連携しながら、患者さんを中心とした医療の一角を担えるよう努力していきたいと思います。特に、顎骨欠損を伴う患者さんには咬合再建治療を積極的に行うことでQOLの向上を図りたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**経歴**

| | |
|---|---|
| 平成３年 | 東北大学歯学部卒業<br>国立水戸病院歯科口腔外科勤務（研修医） |
| 平成６年 | 鶴見大学歯学部口腔外科学第一講座　助手 |
| 平成17年 | 鶴見大学歯学部病理学講座　助手 |
| 平成21年 | 鶴見大学歯学部口腔外科学第一講座　講師 |
| 平成27年 | 本学歯学部口腔顎顔面再建学講座　准教授 |
| 平成28年４月 | 現職 |

平成28年4月1日就任

口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野

## 佐藤　健一（さとう　けんいち）

昭和38年1月3日生
岩手県盛岡市出身

**研究テーマ**
・精神鎮静法時の呼吸抑制とその指標
・麻酔薬による脳内酸素環境に与える影響
・局所麻酔薬の作用機序とその開発

**主な著書論文**
・メピバカイン塩酸塩のブタ舌動脈、肺動脈および冠動脈血管平滑筋に対する作用（BMC Anesthesiology 2015; DOI:10.1186/s12871-015-0085-x）
・笑気吸入鎮静法下での経皮的二酸化炭素分圧と呼気二酸化炭素分圧との比較（J Clin Monit Comput 2015; DOI: 10.1007/s10877-015-973-3）
・リドカイン塩酸塩のブタ舌動脈および肺動脈血管平滑筋に対する作用（J Anesth 2015; 29:529-34.）

**趣味**
釣り、アウトドア、写真撮影

**教職員への自己ＰＲ**
昭和63年から5年間口腔外科学講座にて研鑽を積みました。その過程において患者の全身管理をより深く学びたいと思い、平成5年から歯科麻酔学講座に移籍し、全身麻酔などの全身管理に従事してきました。複数かつ重度の全身疾患を合併するリスクの高い患者が多くなっており、医科・歯科の関連各科との連携による診療が必要です。歯科医療センターのチーム医療の要として、今後の岩手医科大学の発展に寄与したいと考えております。

**経歴**

| | | |
|---|---|---|
| 昭和63年 | 本学歯学部　卒業 | |
| | 本学口腔外科学第一講座 | 副手 |
| 平成５年 | 本学歯科麻酔学講座 | 副手 |
| 平成６年 | 本学歯科麻酔学講座 | 助手 |
| 平成９年 | 鹿児島大学歯科麻酔学講座 | 助手 |
| 平成11年 | 本学歯科麻酔学講座 | 助手 |
| 平成13年 | 本学歯科麻酔学分野 | 嘱託講師 |
| 平成18年 | 本学歯科麻酔学講座 | 講師 |
| 平成27年 | 本学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野 | 特任准教授 |
| 平成28年４月 | 現職 | |

表彰の栄誉

## 名和 橙黄雄 名誉教授が「瑞宝中綬章」を受賞しました

本学名誉教授の名和 橙黄雄 先生は、平成28年度春の叙勲において瑞宝中綬章を受賞しました。

名和先生は、昭和36年3月に信州大学文理学部を卒業後、昭和48年9月に旭川医科大学助教授を経て、昭和51年4月に岩手医科大学歯学部口腔解剖学第2講座教授に就任されました。以来、30年間にわたり講座を主宰し、平成11年4月から平成14年3月までの間は同大学図書館長も歴任され、平成18年3月に本学を定年にて退職されるまで解剖学の教育・研究に努め、同年4月に名誉教授の称号を授与されました。

また、先生は現在iPS細胞の研究などで一般的な研究技法として定着し用いられている組織培養（細胞培養）を、口腔解剖学の分野において初めて導入したパイオニアであり、歯胚細胞の分化の過程の解明に多いに貢献され、口腔解剖学の分野において組織培養（細胞培養）から細胞の分化の過程を明らかにしてきました。この功績は現在も様々な研究に活かされており、医療の発展に大いに貢献されたことが高く評価されました。

## 医学部5年生が日本内科学会総会「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2016東京」で本学学生3度目となる優秀演題賞を受賞しました

このたび、4月16日に東京で開催された日本内科学会総会「医学生研修医の内科学会ことはじめ2016東京」で、本学医学部5年生が優秀演題賞を受賞しました。

演題数は、これまで最多の300演題以上となり、6演題ずつの各ポスターセッションに分かれて発表し、座長から審査を受けました。受賞演題は、4年次に研究室配属実習で研究した「急性心筋炎の臨床的特徴の検討—劇症化する急性心筋炎の心電図の特徴はなにか」で、演者は小林敬正さん、安齋潤さん、押切祐哉さん　荒川夢香さん　林瑞香さんです。内容は、重症化する急性心筋炎の心電図変化の新しい知見を導きだしたものです。ほかは、すべて全国各地からの研修医が発表するなかで、本学学生は研究内容、プレゼンテーションの巧みさ、質疑応答、態度などがずば抜けて高く評価されました。併せて、小生に優秀演題指導教官賞をいただきました。

おかげさまで、本学学生は研究室配属での研究内容で、今回で3度目の受賞です。研究室配属の是非も論議がある中で、今回の受賞が彼らにとって、極めて有意義な学会経験になったことは、間違いありません。

さまざまなご配慮をいただいた森野禎浩教授、ならびに臨床実習中の週末に、東京への移動にご配慮いただいた各講座の先生方へ厚く御礼を申し上げます。

（文責：医学教育学講座地域医療学分野／内科学講座循環器内科分野　伊藤　智範）

## 泌尿器科学講座 伊藤 明人 助教が第253回日本泌尿器科学会東北地方会において優秀演題賞を受賞しました

この度、第253回日本泌尿器科学会東北地方会（平成28年4月30日：福島市）におきまして、演題「馬蹄鉄腎に発生した腎盂癌脾臓浸潤症例」を発表し、優秀演題賞を受賞させていただきました。当講座としては第251回から3期連続で同賞を受賞することが出来ました。馬蹄腎に発生した腎盂癌周囲臓器へ浸潤した症例は未報告であり非常に希な症例と考えます。私たちの仮説として病理学的に高異型度の浸潤性尿路上皮癌であった点、発生学的に馬蹄腎による回転異常があった点、画像診断学的に高度水腎により腎盂と脾臓が密接し、さらに腎周囲脂肪が少なかった点の3点が本症例に至ったと推察いたしました。仮説を立て、それに向かって検証していくという本講座で学んだ姿勢を活かすことができました。まだまだ拙い発表ではありましたが、余りあるご評価をいただけたことは今後の私の医師生活において非常に励みになりました。

今回の発表に際しては小原教授、大森准教授、当講座の医局員の諸先生方を始め、病理診断科学講座の菅井有教授、鈴木正通先生、放射線科の鈴木智大先生、鈴木美知子先生など各分野のエキスパートの先生より御指導をいただくことが出来ました。この場を借りまして改めて深く感謝申し上げます。

（文責：泌尿器科学講座　伊藤　明人）

# シリーズ 職場めぐり No.101

## 小児科学講座

当講座では、千田勝一教授のもと、40余名の医局員が専門グループに所属し、高度小児医療の提供と小児の健全育成を目標に、本院における外来診療と、総合周産期母子医療センター新生児集中治療室・小児病棟（無菌室併設）・集中治療室・循環器医療センターにおける入院治療、および高度救命救急センターにおける救急医療に従事しています。また、県内の中核病院を拠点に県全域と近隣県境の小児医療を担い、テレビ会議システムを使って小児救急遠隔支援および合同症例検討会も行っています。医局員の出身大学が多彩で、医局員の半数を女性が占めるのも特徴です。仕事と出産・育児を両立できるように環境の整備を進めております。学生教育、研修医教育を通して、よき臨床医・研究医の養成が重要と考えています。

（医局長　石川　健）

## 看護部（中央手術部）

中央手術部は、看護師64名と技能士３名、看護補助者14名、クラーク４名で運営しています。そのほか、臨床工学技士、放射線技師が常勤しており、各診療科医師と一丸となって昨年度は9400件の手術が行われました。中央手術部では、『患者・家族の思いに寄り添い、安心と安全な手術看護を提供する』を部署理念に掲げています。手術看護師には、患者と関わることのできる限られた時間のなかで、個々の思いを引き出し、ニーズに応え、安心と安全な手術看護を保証する役割があります。ロボット支援下手術や脳外科意識下手術の特殊分野においては、チーム制をとり専門性の高い看護を提供しています。また、肝移植、肥満、周術期管理チームなど他職種との合同ミーティングに参加し、患者情報の共有に努めています。今年度は、手術中待機されているご家族への術中訪問を導入し、ご家族への気配りと心配りに努めていきます。

（主任看護師　佐藤　朋枝）

## 岩手県こころのケアセンター（中央センター）

岩手県こころのケアセンターは、東日本大震災により辛い経験をされた方々を対象に、沿岸の地域住民への相談支援や、普及啓発活動・人材育成等の支援を行うことを目的として、平成24年２月に設置されました（岩手県委託事業）。

当センターは、内丸キャンパスの中央センターと、沿岸（久慈・宮古・釜石・大船渡）の４つの地域センターで組織されております。

中央センターは、センター長（酒井明夫 副学長）、副センター長（神経精神科学講座 大塚耕太郎 教授）を中心に、専門職４名、事務職６名で構成されています。また、医学部災害・地域精神医学講座と緊密な連携を図りながら支援を展開しております。

被災地では、今もなお多くの住民の方々が仮設住宅で生活をしております。一日も早い生活の復興が訪れることを願って、日々の活動に尽力しております。

（副センター長　大塚　耕太郎（神経精神科学講座教授））

## 理事会報告　（４月定例－４月25日開催）

### １．教員の人事について

医学部救急・災害医学講座　災害医学分野
教授　眞瀬　智彦（前災害医学講座　特命教授）
発令年月日　平成28年５月１日付

### ２．組織規程の一部改正について

看護学部新設への対応及び学生部長の業務を補佐する副部長を新たに設置するため、第16条に定める学生部長、学生副部長の定員を削除したいこと、また、別表２教育研究組織機構図へ講座内に組織される分野名を追記したいこと、更に別表３-１附属病院組織機構図の医科診療科に腫瘍内科を追加、血液・腫瘍内科を血液腫瘍内科に変更することとして組織規程を一部改正することについて承認

### ３．附属病院移転事業の医療機器等整備に係るコンサルタント会社の選定について

## 大学報原稿募集

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活溌な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（表紙写真も募集しています）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしています。事務局までご連絡ください。

連絡先
大学報事務局（企画部企画調整課）
内線　7022
kikaku@j.iwate-med.ac.jp

《岩手医科大学報編集委員》

小川　彰　米澤　裕司
影山　雄太　山尾　寿子
松政　正俊　菊池　初子
齋野　朝幸　佐々木さき子
成田　欣弥　佐々木忠司
佐藤　仁　熊谷　佑子
藤本　康之　畠山　正充
白石　博久　菅原　侑子
藤澤　美穂　武藤千恵子
髙橋　慶

## 編集後記

今年も梅雨の季節を迎えました。それでも、近所から聞こえてくるさんさの音色は、日毎に力強くなり、近づく夏をたしかに感じさせてくれます。

私は最近、ゴルフをはじめました。野球とは違い、止まっているボールを打つという、ごくごく単純な動きのはずなのですが、これがまた難しいのです。先輩やコーチの教えどおりに打ってみるのですが、体がその通りに動いてくれません。体に新しい動きを覚えさせる練習は大変ですが、徐々にできるようになると楽しいです。

音色が聞こえてくれば、自然と心も体も踊りだすように、楽しみながら上達したいものです。

（編集委員　髙橋　慶）

**岩手医科大学報　第477号**

発行年月日　平成28年６月30日
発　行　学校法人岩手医科大学
編集委員長　小川　彰
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印　刷　河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか

# スポット医学講座

No. 67

皮膚科学講座　助教　佐藤　隆亮

## 爪の切り方について

今回は爪の（特に足の親指の爪）切り方についてお話ししたいと思います。

爪は指先を保護するとともに指の腹側からの力を支持し指先の機能を高めているといわれています。体重を支えている足の爪を間違った方法で切ると、爪の横（側爪郭）が指の腹側からの力に耐えられず盛り上がってきます。そうすると爪が伸びてくるときに邪魔になって巻き爪になったり、爪が刺さって陥入爪になります。爪の大家といわれる東 禹彦先生は名著「爪」の中で陥入爪の“本当の原因は深爪である”と言い切っています。

最近はネイルサロンなどの影響でしょうか若い方には以前に比べて真っすぐ（スクエアオフ）に切る（図1）ことは浸透してきているようですが、それでも他の年代ではあまり知られていないようです。スクエアオフに切ることで一番重要な点は、爪の角が足を踏み込んだ形になっても皮膚に刺さらないことで、踏み込む形を作っても、爪と皮膚を広げるようにしても爪の角が同じように見えるような形で切ることです。

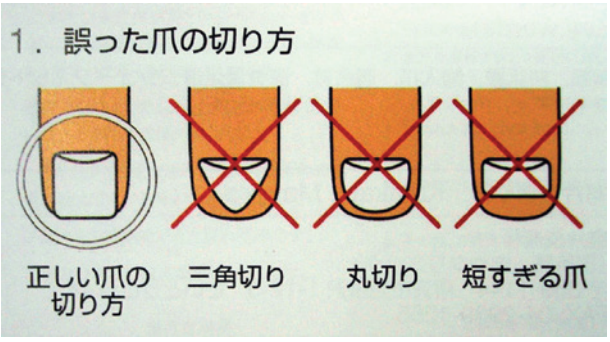



図1

次に切り方のコツですが、

❶入浴や足湯の後の爪がしっとりとした状態で切る
❷右端から切り始めて真ん中まで来たら今度は逆側の左端から切り始めて真ん中で合わせる（図2）
❸切るのが難しければ爪やすりで毎日（または1日おきくらいに）やする

などがあります。①は乾燥していると爪はもろく、切るときに余計な亀裂が入ったり角が欠けたりするのでこれを防いでくれます。しっとりした状態で切りましょう。②は片方から切り始めて反対側に最後まで切り進めようとすると最後の一切りの手前でパキッと割れて深爪になることは存外多いものです。両側から切れば割れはある程度防げます。③のやすりはどうしても切ると割れてしまうとか、厚くてうまく切れない場合でも割れることは少ないですし深爪にするのはむしろ難しいのでお勧めです。ただし毎日または一日おきくらいにやする必要があります。

爪の切り方の重要性と簡単にできるコツについてお話しました。一度試してみてください。

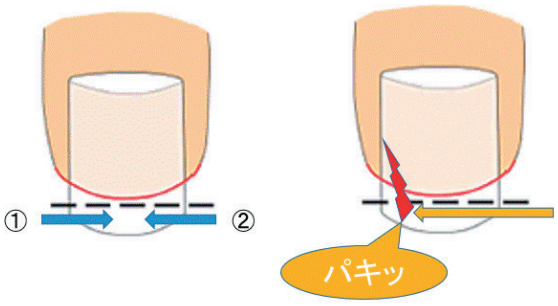



図2